

いちご定植苗の炭酸ガス処理によるハダニ類防除法の確立

要約

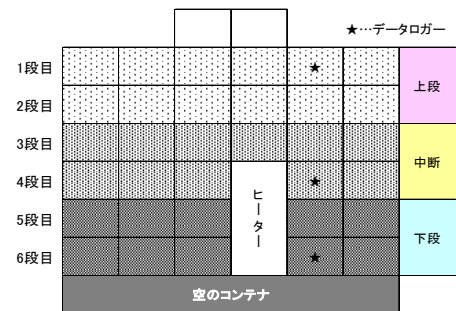
炭酸ガス処理バッグ内は、ファンやヒーターを使っても場所により温度の差異が出てくる。しかし、温度が一番低い下段でも炭酸ガス処理効果があるとされる 25℃を確保することができた。さらに、処理の温度差による生育の差異もなく処理効果は十分に見られた。

炭酸ガス処理による、導入コストや処理労力は増加するものの、定植後の防除の省力化や単収向上が図られ、所得がそれを上回って増加したため、経営改善効果は高いことが実証できた。

○ 展示のねらい

いちご栽培におけるハダニ類防除として、定植苗を炭酸ガスでくん蒸する方法が生産現場に導入されつつある。効果を高めるため、くん蒸中の加温方法の検討を行う。

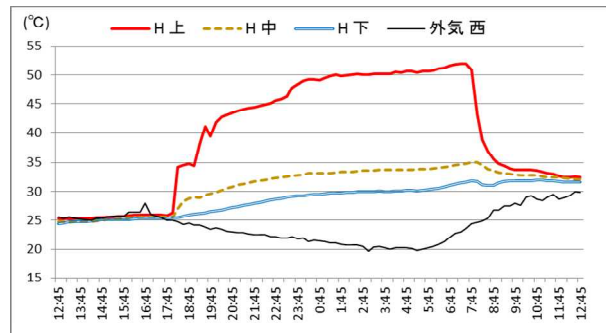
右図のとおり調査区（H 上段区、H 中段区、H 下段区）を設け、炭酸ガス処理システム内の 24 時間の温度変化を測定した。



○ 主な成果

ヒーターとコンテナの隣接面に断熱材の設置がなかったため、コンテナ内の温度が 25℃より高く推移してしまっただが（右グラフ）、処理直後、処理 7 日後ともハダニ類の生存個体は認められず、定植後の生育についても供試区間で差異は見られなかった。

また、経営収支は、47a の栽培をする上で炭酸ガス処理を導入したことにより 171 千円の増となった。しかし、総収量が増加したことにより、所得が平年産に比べて 2,582 千円の増となり、炭酸ガス処理導入により増えた経費を上回る所得を得ることができた。



○ 今後の方向性

9月の夜温は 25℃を下回る日もあるため、十分な処理効果を得るためには処理バッグ内にオイルヒーターを入れ、ファンで均一にかくはんすべきである。さらに、オイルヒーターの熱が直接付近のコンテナに伝わらないよう、段ボール等の断熱剤をヒーターとコンテナの間に設置するとヒーター付近のコンテナ内が高温になるのを防げる。また、コンテナ内の温度を常時把握できるように、モニター付きの温度計を設置する。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：芳賀町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315